

○ 事例発表 2

「誰もが最期まで村で住み続けることができる 高森のいえ」

発表者 玉置 広之氏 十津川村総務課企画グループ

● 十津川村の概要

- ・面積：672.38 km²
- ・奈良県の5分の1 日本一広い村
- ・琵琶湖や淡路島よりも大きい
- ・村の96%が森林
- ・急峻な地形の緩やかな部分に集落が点在
- ・過疎・少子高齢化が進んでいる。
- ・人口：3,261人
- ・世帯数：1,772世帯（令和1年9月1日現在）

● 十津川村の資源

- ・谷瀬のつり橋
- ・玉置神社（大峯奥駈道）
- ・果無集落（熊野参詣道小辺路）
- ・源泉かけ流し温泉（温泉地温泉・十津川温泉・上湯温泉）

● 平成23年の台風12号で5日間におよんで大きな被害を受けた。降水量1,358mm。

● 村内80か所以上で深層崩壊が起こり、国道の落橋も発生。

● 人的被害

- ・死者：7名
- ・行方不明：6名
- ・重傷者：3名

● 建物被害

- ・全壊：18棟
- ・半壊：30棟
- ・床下浸水：14棟

● 大災害からの復旧として、明治22年の十津川大水害では北海道新十津川町へ2600人が移住。平成23年の紀伊半島大水害では村内で移住（集落移転）。

● 村内移住に際して、集落の景観に配慮した復興住宅を建築し、助け合い・支えあいによるコミュニティづくりを考慮した。

● 十津川村の課題

- ・村に7つの区、55の大字、200余りの集落があり、集落が点在。高齢化は45%。
- ・過疎化が進み、高齢者一人世帯では心細い。

● 高齢者の要介護度が進むと、自宅介護や村外子ども宅での介護を経て、特別養護老人ホーム（約30人待ち）や村外施設への入居となる（80人）。

● 十津川村の介護保険給付費用（約6億円／年）の約3分の1が、村外での介護サービスに利用されている。

- 第6期介護保険料は、奈良県内でも3位。これ以上増やせない。
- 村には助け合い・支えあいの精神が残っている。地元住民が歩道（仮橋）を作成したり、応急仮設住宅の入居者がコミュニティを形成したりしている。
- 自宅から集まって、みんなが助け合いながら住める中間的な施設「高森のいえ」が作れないかという構想が立ち上がった。高森地区が選ばれた理由は以下。
 - ・安全な集落づくりのモデル地区
 - ・十分な建設用地がある。
 - ・村唯一の特別養護老人ホームがある。
- 「高森のいえ」は、介護度が「自立」～「軽度」の高齢者が入居する住宅。入居者や集落住民による緩やかな見守りを行う。そのなかで畑仕事や軽作業でやりがいを感じてもらおう。
 - ・村民の入居希望を叶える。
 - ・村内に住めば村内で介護保険費用を利用できる。
- 十津川村のこだわり
 - ・十津川村の木を使い、十津川村の大工で建てる。8工区を十津川村の大工6者へ発注。計画予定地も残している。
- 平成29年3月に「高森のいえ」完成。
 - ・高齢者向け単身世帯用住宅 3棟6戸
 - ・高齢者向け2人世帯用住宅 1棟2戸
 - ・一般世帯向け住宅 1棟1戸
 - ・センター棟 1棟1戸 9戸中9世帯入居（令和1年9月現在）
- 「高森のいえ」入居要件
 - （高齢者向け単身世帯向け・2人世帯向け住宅）
 - ・年齢が60歳以上であること。
 - ・緩やかな見守りがあれば自立生活が可能であること。
 - ・村外に居住する方の場合は、村出身者であること。
 - （一般世帯向け住宅）
 - ・子ども（18歳未満）がいること。もしくは、妊娠中であること。
- 「高森のいえ」の設備
 - ・布団を敷いておける和室を設けるなど、入居者のニーズを反映。
 - ・一時居住としての機能も果たすため、照明器具、家電製品、家財用具などは村が負担。自宅との往復も可能になる。
 - ・週1回のお茶会、食事会の開催。
- 「高森のいえ」のメリット
 - ・村営住宅として建設するので、介護保険費用に跳ね返らない。行政による管理運営が可能。
 - ・持ち家があっても入居可能。村内2地域居住。自宅での生活も可能。一人での生活が不安なときは、「高森のいえ」に来て安心できる。
 - ・子育て世帯向け住宅、共有スペースを併設することで、若者による緩やかな見守りによる安心感がある。共有スペースによるコミュニティ形成。

- 村内2地域居住の推進。自宅と「高森のいえ」を行ったり来たりすることで、徐々に安心拠点へ誘導する。住民の意向優先。
- 村の7区への広がりも進んでいる。現在「西川のいえ（仮称）」の整備を進める方針。「高森のいえ」は新築で3億円だが、「西川のいえ」は中学校の寮をイノベーション。
- 連携体制があったからこそ「高森のいえ」は実現した。
 - ・ 事業協力：奈良県
 - ・ 集落景観デザイン調整・全体配置計画・高森のいえプロジェクト企画立案協力及び監修：蓑原敬（十津川村 村づくりアドバイザー）、(株)環境設計研究所
 - ・ 高森のいえプロジェクト企画立案協力及び監修：園田真理子（明治大学／高森のいえP J推進委員会 委員長）、三浦研（京都大学／高森のいえP J推進委員会 副委員長）、室崎千重（奈良女子大学／高森のいえP J推進委員会 委員）
 - ・ 高森のいえ 設計・監理：(株)アルセッド建築研究所、安部良アトリエ一級建築士事務所、(株)エキープ・エスパス

